
「ヒトカゲの旅」攻略集

Lino

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「ヒトカゲの旅」攻略集

【Nコード】

N2753G

【作者名】

Lino

【あらすじ】

小説「ヒトカゲの旅」「ヒトカゲの旅 SE」の設定・キャラ紹介・裏話などを対談形式で書いていきます。

「ヒトカゲの旅」ができるまで

作者：えーみなさんこんにちは、作者のLinnoです。

ヒトカゲ：主人公のヒトカゲです

作者：まあなんか気分転換的なノリで始めちゃったんですが……（汗）ここでは「ヒトカゲの旅」のいろんな雑談をしていこうかと思いません。

ヒトカゲ：大丈夫？ けっこー小説の設定を変えたりしてるって聞いたけど？

作者：大丈夫。軸は変わらないからさ。

ヒトカゲ：じゃあ……何から話すの？

作者：初回の今日はねー、小説「ヒトカゲの旅」ができた理由についていろいろ話そうかな。

ヒトカゲ：それじゃあ僕が質問やる〜！

作者：おっ、ありがたい！ どのからでもこい！

ヒトカゲ：では早速……どうしてポケモン小説を書こうと思ったの？

作者：理由は2つ。1つは第1話の前書きに書いたけど、懐かしくなつたからかな。そしてもう1つは、ちょっと疑問に思ったことがあるからだよ。

ヒトカゲ：疑問？

作者：そう。ゲームだったらさ、トレーナーがポケモンを捕まえて育ててバトルして……って感じだけさ、「もしポケモンだけの世界だったら、彼らはどんな生活をしてるのかなあ」ってふと思ったのさ。

ヒトカゲ：そっかあ。凶鑑集めないと謎だからね。そういえば、僕が主人公ってどうなの？ 嬉しいけどさ（笑）

作者：初代を知ってる者としては、やっぱり御三家の誰かを主人公にしたいじゃない。それに、金・銀までは必ずほのおタイプって決めてたからね。君しかいない！ ってたのさ（ホントはバクフーンが大好き！ とはここでは言えないな 笑）。

ヒトカゲ：えへへ、そっか ……でも僕が記憶喪失って、酷くない？

作者：いやいや、何かを抱えた主人公っていいじゃない！

ヒトカゲ：それに詠唱技とか“ブラストバーン”とかさ、ありえないうって（汗）

作者：“ブラストバーン”はちゃんとした理由があるけど、詠唱技を最初思いついたとき、「ちょっと（ポケモンというものの軸からはずれ過ぎかな？」とも思ったけど、そこは2次小説。やっちゃえ！ ってなつて（笑） これも一応理由考えたからね？

ヒトカゲ：……で、何で僕はこれらを使えるの？

作者：さあねえ〜　　これが掲載される頃にはまだ言えないな。

ヒトカゲ：いじわる〜……あ、前にバンギラスが言ってたけど、この小説バトル少ないよね。何で？　バトル嫌いなの？

作者：そういうわけではないよ。この小説は基本的には、ポケモン同士は無駄な争いごとを好まない設定なのね。平和で、ほのぼのとした世界を基盤として書いてるのさ。それと書いてみたかった事に、「バトル以外でポケモン技を使う場面」があるんだ。

ヒトカゲ：へえ〜。

作者：ついでに言うと、そういう理由で小説のタイトルを「ヒトカゲの冒険」じゃなく「ヒトカゲの旅」にしたのね。Adventure（危険になることを承知で行う）じゃなく、Journey（住んでいる所を離れて他所を訪れる）って意味が一番合うかなって思ってた。元々、海の神様にお礼を言うためにしてるんだからさ。

ヒトカゲ：なるほど。だけど、カイリユーが出た時点でもう危険だよね（笑）

作者：……そうっすね（笑）

ヒトカゲ：したら、今回はこれくらい？

作者：そうだね。これでなんとなくわかってくれたと思うから。

ヒトカゲ：次回は何するの？

作者：うゝん……未定（笑） ……あつ、誰か来たみたい。

ゼニガメ：ハア……ハア……間に合ったあ！！

作者&ヒトカゲ：いや、アウトだし（笑）

ゼニガメ：うゝん！ 出番なかったあ ……！！（泣）

作者のあれこれ（前書き）

作者：こんにちは、いきなりですが連絡です。諸事情により、「ヒトカゲの旅」の第23話の更新が少くし遅くなります。

それで、今掲載されている22話全てに加筆・修正を施しましたので、よければもう一度最初から見てください。加筆した部分はウオーリーを探すよりも難しいと思います（笑）

作者のあれこれ

ゼニガメ：今回は俺も出るからな！

ヒトカゲ：絶対前回の事引きずってるよね（汗）

作者：まあまあ。それじゃあ今日のテーマを、ゼニガメ、発表しちゃって。

ゼニガメ：今日のテーマはずばり……「作者に聞いて見た！ 『ヒトカゲの旅』の裏事情！」

ヒトカゲ：おーっ！

作者：「おーっ！」じゃねーよ（笑） 言えない事まだいっぱいあるから却下。

ヒトカゲ&ゼニガメ：え〜……じゃあさ、「作者丸裸」でどう？

作者：ま、丸裸？

ゼニガメ：俺らの事が言えないなら、自分の事しか言えないじゃないっすか〜

作者：うっ、確かに……答えられる程度ならいいよ。

ヒトカゲ：じゃあいきますよ。覚悟してね（笑） では……ペンネームの由来は？

作者：以前ボツにした連載小説に出てくる、イタリアのマフィアのボス・Linode Rossiniリノ・デ・ロッシという人物から取りました。個人とは全く関係ありません。

ヒトカゲ：どこに住んでるの？

作者：個人情報保護法にひっかかるだろ（笑）　うん……ブロックで言えば「シンオウ地方」だよ。

ゼニガメ：職業は？

作者：大学生……って、これ前にも言ったぞ（笑）

ヒトカゲ：特技ある？

作者：あるけど、あんまり言いたくないな。個人を特定しかねないものだから。

ゼニガメ：ポケモンはいつから？

作者：「青」から。っていうのも、みんな赤・緑からやってたけどさ、その時お金なくなつて（汗）　だけど青が最初発売するとき安かったから、買ってプレイしたよね。そして黄と銀をやったな。そして飛んで飛んで、現在プラチナ。

ヒトカゲ：あれ、ルビー・サファイアとかは？

作者：新しいゲーム機を買う気になれなくて、というより、もうその頃にはゲーム離れしてたからやってないな。

ゼニガメ：そつかあ……でもポケモンはハマった？

作者：ハマったねえ。だけど当時は強引に押し切るタイプだったから、たぶん誰かと対戦しても勝てなかったと思うよ。今だってようやくタイプ相性を覚えたくらいだからね。戦術とかはまだまだ。マジ、誰かに教えてもらいたいです（汗） 大真面目な話、作者メッセージにて募集中（笑）

ヒトカゲ：じゃあ金・銀までで1番好きなポケモンって何？

作者：1番？ え〜……2人いるんだけど、いい？

ヒトカゲ&ゼニガメ：（……もしかして、俺らじゃない！？）
いよー！！

作者：バクフーンとルギア。

ヒトカゲ&ゼニガメ：……っざけんなあ ！！（怒）

作者：な、何！？ 正直に答えただけじゃん！？

ゼニガメ：……で、よく手持ちに入れてたのは？

作者：え、えっと……ピジョットとゴローンかな。

ヒトカゲ&ゼニガメ：はあ！？（怒）

作者：だから何でさっきからキレてんの（汗）

ヒトカゲ：……こうなったら……「ポケモン不思議のダンジョン

青の救助隊」で主人公は誰になった？

作者：ヒノアラシ。

ヒトカゲ：じゃ、じゃあパートナーは誰にした！？

作者：ゼニガメだね。

ゼニガメ：さっすがあゝ作者さん見る目あるゝ

ヒトカゲ：……………何なのさ、僕は小説の主人公だっていうのにさ、
1番好きでもないし、ゲームのパートナーにすらならないし……………
(泣)

作者：でもゼニガメと君を比べたら、絶対君を選ぶな。「青」やり
始めた時からいつも君だったし。

ヒトカゲ：ホント！？ 作者さん大好きゝ！！

ゼニガメ：じゃあ俺は何なんだよ！？ あんたの好きなポケモンを
引き立てるサブキャラでいろってことか！？

作者：いや、そういうわけじゃなくて…………

ヒトカゲ&ゼニガメ：どっちが好きなの！？

作者：あー……………かまってられないので強制終了します(笑) みな
さんまた次回会いましょう(^ | ^) /

登場キャラ紹介 part 1

作者：それじゃ、今日は登場キャラの紹介でいこうかな。

ヒトカゲ：やっとだよね。

作者：だってこれ書いてるときにはまだ旅のお供が出演してなかったんだもん（汗）

ヒトカゲ：まあいいや。始めよ！

作者：じゃあまず、ヒトカゲ！

ヒトカゲ：はいっ！

作者：これ貼って。

ヒトカゲ：ん？ ……はい。

・ヒトカゲ

この物語の主人公。自分を助けてくれたポケモンに会ってお礼を言うために旅に出る。名前以外はほとんど記憶喪失。性格は大人しく、食いしん坊。一人称は「僕」。

正義感が強く、困っているポケモンを放っておけない。またあまり他者に迷惑をかけたくないと思うため、いろいろと心に抱え込んでしまう。

作者：したら次はこれ貼って。

ヒトカゲ：はいはい。

・ゼニガメ

ヒトカゲの初めての仲間。ヒトカゲを助けつつ、行方不明になった兄を探すために同行する。難しい事を考えるのが嫌いで、大雑把な一面も。一人称は「俺」で、口癖が「マジ」。

金とタワシが大好き。一時期不良グループの番長をやっていたこともあり、多少強い。

作者：次はこれね。

ヒトカゲ：はい（手抜きだな……）。

・チコリータ

ベルデ島一の資産家の娘。旅に出たいという理由でヒトカゲ達についていくことに。基本的にはおしとやかで控えめ。しかしやる時は本気でやるうとするしっかり屋でもある。

父親から教えてもらった技が豊富で、お嬢様とは思えないような攻撃や防御ができる。一旦妄想の世界に入ると、抜け出すまでに相当の時間を要する。

作者：そしてこれ〜。

ヒトカゲ：へいへい。

・ドダイトス

チコリータの家の警備員。チコリータの警護のためにヒトカゲ達と同行している。見かけと異なりとても気の利く、優しいお兄さんの存在。みんなの前での一人称は「私」。

訳ありで1人で生きてきたため、肉体的にも精神的にも逞しい。ただ、筋肉のせいで体重が330kgと普通のドダイトスより重いのだが、本人はそれを気にしている。

作者：最後これね。

ヒトカゲ：……はあ。

・作者

この小説の創造主。全てのポケモンを自分の手中に収めている、最強の人間。傷つけたり逆らったりすると、容赦なく原稿から抹殺される。ひっそり絵を描くのが好き。

ポケモンの知識を増やすことに日々精進している。基本的に夜中〜朝にかけて活動する。部屋には何故かルギアのフィギュアがポツリと置いてある。

作者：んじゃ、帰るから。

ヒトカゲ：えっ、ちょっと!? ……ホントに帰っちゃった。……はっ! み、みなさん、ゴメンなさい、作者さん勝手に帰っちゃったんで、僕が締めをやらせて頂きますね。次回も何するかわかんない

いけど、気楽に読んでくださいね！！ バイバイ

島の名前と分類

バンギラス

「今日は俺の出番だな！」

あっ、被害妄想が激しくてイジられキャラになってる、怖い顔してピュアなハートの持ち主のバンギラスじゃないか！

バンギラス

「……………殺すぞ？」

……………やるか？

バンギラス

「すみません、いいです(汗)」

はい、それじゃあ今日は何話したい？

バンギラス

「俺、気になってる事があるんだけどよ、このアイランドの島の名前、どういうネーミングなんだ？」

えっ、変？

バンギラス

「だって、辞書引つ張つても“口ホ”とか“ナランハ”とか出てねえぜ？」

だろうね。本当は英語使つて名前決めようかと思っただけ、それじ

や面白くないからちよつと変えたんだ。

バンギラス

「ちよつと変えた？」

そう。実は島の名前、全部スペイン語で書いてみたんだ。

バンギラス

「何故にスペイン語よ（汗）」

私、昨年英語とスペイン語とドイツ語を履修してしましまして（汗）
せつかくならそれを活用しようかと。ドイツ語だとなんとなく気
づかれる可能性があるかなあ〜なんて。

バンギラス

「へえ〜自慢か」

自慢じゃないし（汗）

バンギラス

「で、どういう意味なんだ？」

簡単に言っちゃえば、「色」。^{口ホ}rojoは「赤」、^{アスル}azulは「青」
、^{ナランハ}naranjaは「オレンジ」とかね。1つだけ色じゃないんだ
けど、今は秘密ってことで。

バンギラス

「……わかんねえ、俺に語学は無理だ（汗）」

でも分類がわかったら大丈夫だと思うよ。バンギラス、口ホ島にい

たポケモン誰々いた？

バンギラス

「ロホ島？ えっと、ヒトカゲにウインディにエンテイ、バクフーンにデルビル……あっ、みんなほのおタイプか！」

正解 そんな風にして私はアイランドを創造したってわけよ。

バンギラス

「なるほどな。それとき、この世界にはアイランド以外の大陸はないのか？」

あるよ。昔、メガニウムとかバクフーンが冒険した大陸があるんだ。まあ今は話せないけど。

バンギラス

「どうしてだよ？」

正直な話、それについてまだ何も決めてないから（笑）

バンギラス

「おい（汗）」

きつといつか紹介するさ。

バンギラス

「頼むぞ。作者、忙しいフリしてる疑惑があるからよ」

はあ！？ マジで忙しいぞ！？

バンギラス

「嘘だよ嘘（笑）」

……やっぱやめようかなあ……

バンギラス

「何をだ？」

君を再登場させようとしてただけど、こんな嘘つきを小説に出すわけにはいかないからさ。

バンギラス

「ちょ、ちよっと待て！ 俺が悪かった！ 謝るから、出してくれ！」

読者の皆様が悲しむだろうなあ、謎が残ったまま君がもう出てこないとなると……嗚呼、いずれ「ヒトカゲの旅」は崩壊の危機に……

バンギラス

「……………（泣）」

あら、泣いちゃった（汗） ゴメン、嘘だから泣くな。

バンギラス

「……………ホントか？」

君が好きだから小説に出したんだ。大丈夫、君を出さないってことはしないよ。

バンギラス

「……作者あゝ！！（泣）」

うぐっ！？ 苦しっ……だ、抱きつくな……

バンギラス

「俺も作者好きだからよゝ！」

（やっぱりやめようかな……泣）

登場キャラ紹介 part・2 (前書き)

今回は、口ホ島みんなの紹介です！

登場キャラ紹介 part・2

ウインディ

「作者さん、いきなり呼び出してどうしました？」

ん、そろそろキャラ紹介をやるうかと思って。

ウインディ

「じゃ、早くしてください。眠いです(汗)」

ごめんね(笑)それじゃ、始めますか！
まずは君からでいいよね？」

ウインディ

「どうも、ご無沙汰です」

彼はウインディ。血縁関係はないですが、ヒトカゲの父です。

ウインディ

「あの子は私の事を頑固者とか言い振り回してるそうぞ(怒)」

でも、ちょっとキツイ言い方になっちゃっつほど、ヒトカゲが心配ってことなんでしょ？

ウインディ

「そうです。可愛いからこそ、言っつのです」

優し〜 じゃ〜次！

ウインディ

「早いな(汗)」

おいで、デルビル

デルビル

「どうもです 俺がデルビルです」

彼はデルビル。ロホ島でのヒトカゲの遊び相手です。基本的にずっとニコニコ……って、やけにご機嫌だね君(汗)

デルビル

「だって、久々に出演させてもらったわけだし」

ごめんね〜本編にあまり出させてあげなくて。今度何らかの形でお詫びするよ。

デルビル

「やった じゃあお金ください」

……もうちょっと夢溢れるようなものを頼めないのか君は(汗)
実はちょっとだけ、現実的な考え方をするので(汗)

デルビル

「それで、次は誰です?」

あ、そうだね。じゃあ次、バクフーン!

バクフーン

「おっす! 久々……ではないな(笑)」

ヒトカゲの家の近所に住む、ヒトカゲのお兄さんの存在。陽気で大食いなのです。

バクフーン

「普段はあまり食わないけど、大食い大会があるときは、ちゃんと食べ物の種類によって食べ方を変えてるんだ」

フードファイターですか（汗）あと本編ではほとんど語られていませんが、何と、秀才なのです！

バクフーン

「ま、作者よりは全然頭いいけどさ」

腹立つなその言い方（怒）

バクフーン

「これも天性の才能ってやつ？」

決めた。金輪際君を出演させない。

バクフーン

「ごっつ、ごめんなさい〜！俺が悪かったです！だから許してください〜！！（泣）」

あ〜わかったから、鼻水だらけの顔を近づけるのだけはやめて（汗）それじゃ、今日の最後！どうぞ〜

エンテイ

「私が、ポケモンアイランドの番人の1人、エンテイだ」

はい、私の代わりに紹介どうも（笑）
そうだ、「口ホ島の掟」を作ったのは確かエンテイだよな？

エンテイ

「そうだ。つい最近の話だがな」

どういう経緯があつたわけ？

エンテイ

「数年前、他の島に行つては悪戯ばかりして、私達番人や警察にしよっちゆう迷惑をかけるガキがいたのが理由だ」

ウインディ

「へえ〜そうだったのですか」

デルビル

「そんな奴がいたんですね〜」

エンテイ

「そうだ……なあ、バクフーン？」

バクフーン

「ギクツ！？」

犯人は君だったか（汗）

バクフーン

「い、いや、あの頃はまだマグマラシだったし、心がささくれてた時期で……」

エンテイ

「言い訳するとは、情けない。また私達にお仕置きされたいのか？」

ん？ エンテイ、私達って……？

エンテイ

「私とライコウ、そしてニドキング警視だ」

バクフーン

「い、嫌あああ！？ 頼むからやめてくれえ〜！！」

ウインディ

「あつ、想像で怯えている（汗）」

デルビル

「よっぽど恐ろしいお仕置きだったみたいっすね（汗）」

彼にも弱点があったか（笑）

登場キャラ紹介 part・3

今日はナラン八島のみんなを紹介します。

ドダイトス

「あの、本編の方は？」

え〜すみません、今週ものすごく忙しくて、ほとんど執筆できてません（汗）

なので、とりあえずさくつと読めるものを……と思ひまして。

ドダイトス

「なるほど。それでは始めま……」

あゝ確かに君はナラン八島が故郷だけど、前に紹介したから今回はダメ。

ドダイトス

「……なら呑んでくらあ」

ふてくされちゃった（笑）では気を取り直して、始めます！
まずは、コイツから！

バンギラス

「よっ！ 元気してっか？」

もう説明不要ですね、被害妄想が激しくてイジられキャラになっている、怖い顔してピュアなハートの持ち主のバンギラスことバンちゃんです！

バンギラス

「長え、そして、いろいろムカつく(怒)」

でもね、バンちゃんはみんなから愛されてるんだよ？

バンちゃん)

「そうだけだよ……恥ずかしいんだよ(照)」

照れちゃって(笑)だけど、たまに暗くなる事あるよね。

バンちゃん

「やっぱり何年経っても、父さんの事がふと頭によぎることがあるんだ」

そっか。ドナイトスと再会できた時は、ホントに嬉しかったでしょ？

バンちゃん

「ああ。俺達は兄弟同然だからな」

あっ、しまった。全然イジってない(汗)

バンちゃん

「だからいいっつの(怒)」

じゃあ次はコイツ！

ポッポ

「どうも、バンちゃんの1人娘のポッポです」

バンちゃん

「なっ……!!」

よし、でかしたポツポ（笑）

彼女はタマゴの時にバンちゃんに拾われ、生のまま食べられそうに

……

バンちゃん

「あのトロツとした感触がまた……って、言わせんな（怒）」

ポツポ

「（本当に食べようとした事あるのかしら？ 汗）」

ポツポは1度、円形脱毛症と羽の生え変わりを間違えたよね（笑）

ポツポ

「だって、季節によって生え変わるなんて知らなかったんだもん（

汗）」

あ、特技は家事全般だったね。特に料理が好きみたいだね。

ポツポ

「“こおったきのみ”を凍ったままフライにするのは最高ね!”」

実はかなり難しいらしいです、この料理。

それでは、次いくよ〜!

ゴロー

「こんちわ! あんま出番ないゴローンのゴローです（汗）」

バイ

「同じく、イーバイのバイです(汗)」

なんか私が責任感じちゃうじゃない(汗)

わりとアクティブなゴローと、おしとやかなバイ。この2人は友達
……だよな？

ゴロー

「どっかのカップルと一緒にするなよ」

バンちゃん

「だ〜れの事言ってるのかな〜？」(怒)

バイ

「ドダイトスとチコリータの事よ」

バンちゃん

「……だよなあ〜」

(……実際どうなんだか)

ポッポ

「作者さん、何か言った？」

いつ、いいえ何も……

ゴロー

「あつ、ゴロ爺連れて来るの忘れた！」

ゴロ爺というのは、ゴローの祖父。年のせいか、よく居眠りするの

です。

ブイ

「……………それだけ？」

うん、それだけ（笑）

ゴロー

「なんかちよつとかわいそうだな（汗）」

まあまあ。したら次はコイツ！

ピジヨット警部

「どうも、ピジヨットだ」

ニドキング警視

「私がニドキングだ」

警察の皆様ですね。ピジヨット警部はクールで、少し神経質なところも。ニドキング警視は……………「魚屋のおっちゃん」的な感じかな（笑）

ニドキング警視

「なんか、テキトーすぎないか？ 面白いからいいけどさ、ハハハ！」

……………時折、彼のテンションについていけない部下もいるのだとか（汗）

ピジヨット警部

「実はニドキング警視、あまり怒ったことないんですよ」

あ〜わからなくはないかな。その点、君はけっこう言う方だね。

ピジョット警部

「当然だ。それが警察官というものだろう」

ほお〜さすが。そんな部下を持って、ニドキング警視はどう思う？

ニドキング警視

「別に（笑）」

ピジョット警部

「ひ、酷っ！？ 何年も一緒に仕事してるのにい〜（泣）」

……とまあ、ナラン八島のみんなは個性的なキャラ揃いで、私がいなくてもみんなが勝手に楽しくやってるのです。

ドダイトス

「ま〜だやってたのか〜 俺も混ぜろ〜！」

酔っ払いがやって来たので、この辺で（笑）

ドダイトス

「バンちゃん〜 お前の事大好きだからな〜」

バンちゃん

「気持ち悪いわ！（汗）」

キャラ投票、結果発表

え〜当初予定はしていませんでしたが、キャラ投票のランキングを発表しようと思います！

登場キャラ達

『 やっほ〜い 』

じゃあそろそろ静かにしてね。始めにお礼から。

キャラ投票にご協力していただき、本当にありがとうございました。お陰様ですごく勉強になりました。

では発表にいきましょう！ まずは5位！ 結構いますが、まずはこいつから！

エンテイ

「わ、私が……？」

エンテイに票が入るとは、私も意外でした（汗）理由も、第20話で「何事だ!？」って言ったところがカッコよかった、というもので。

エンテイ

「まあ、票を入れた者に感謝する」

ライコウ

「いいよなあ……俺なんかお前やスイクンと違って映画にも出てないし、目立ってないし、DVDだけだし……」(泣)

っ、次いくよ(汗)次はこいつ!

ピカチュウ・ピチュー

『うそ〜!?!?』

これも意外でした。あんまり引き立てるつもりなかったのですが(汗)

ピカチュウ

「それはそれで酷い(汗)」

理由はね、なんかぐっときたらしいよ。

ピチュー

「可愛いってことだよね」

……そういう事にしようね(笑)じゃあ次はこいつ!

オオタチ

「えっ、アタイかい？」

ペルシアン

「やったじゃないっすか姐さん！」

アーボック

「さすがトリッキーウーマン」

その名前がよかったようで（笑）悪いけど恨めない、アニメのロケツト団みたいだってさ。

オオタチ

「やな感じ」（汗）

それだって（笑）さあ、私もさっさとこれを執筆しちやいたいから、次いくよ！

アーボック

「どっという理由だよ（汗）」

ピジョット警部

「ほう、私が5位か」

ニドキング警視

「ちよっ、上司を差し置いてお前という奴は………！」

えつと理由がね、警察系が好き+ピジヨットが好き、だそうです。

ニドキング警視

「組長面は受けないのか……作者、整形させてくれ」

ピジヨット警部

「その前に私に喋られてくれても……（汗）」

ごめん、時間ないから次いくね（汗）じゃあ次はこいつ！

プテラ

「わお、俺か〜！」

バンギラス

「なにい〜！？ 何でお前が!？」

ドダイトス

「何かの間違いだろ!？」

いいえ、ちゃんと票入ってましたよ。この手のキャラがいっぱい。

プテラ

「じゃあ、俺が勝つように応援してくれよ〜！」

バンギラス

「冗談じゃねえ！ お前はここで……」

ドダイトス

「ま、待てバンちゃん！ 作者様が執筆するまでダメだ！」

ハハ……勝手にやってなさい（笑）どんどんいくよ！ 次！

ブラッキー

「あらあ、ありがとう」

ヒトカゲ

「だから何で敵に票が入ってるのー!？」

騒がない騒がない（笑）ブラッキーはその残酷さと冷徹さに惚れたらしいよ。

ブラッキー

「じゃあ次回から、『ブラッキーの旅』の執筆、よろしくね作者さん？」

ヒトカゲ

「僕を殺そうとした理由って、主役交代のため？（汗）」

実はそうかもね（笑）さて5位はあと3人。次はこいつだ！

チコリータ

「私が入ってるうう　　！！」

ドダイトス

「やりましたねお嬢　　！！」

2人とも驚きすぎ（汗）そしてチコリータにはこんな意見がありました。「実は腹黒ではないか」と。

チコリータ

「……どうしてわかったの？」

ドダイトス

「お、お嬢……？（汗）」

ノリツツコミでできるまでに、お嬢様キャラ脱却ですね（笑）次はこいつだ！

ドダイトス

「私も！？」

チコリータ

「す、すごいですわドダイトス　　！！」

だから、驚きすぎだつて（汗）それでドダイトスはね、仲間想いのいい奴みたいよ。

ドダイトス

「いやあ、これも警備員の務めですから」

ゼニガメ

「元強盗犯のくせに（笑）」

ドダイトス

「なっ、今言っなっ！（汗）」

それと、早く気づいてほしいって。

ドダイトス

「あっ、そうでした。お嬢……………」

チコリータ

「……………えっ……………」

ドダイトス

「……………すき焼きまだ食べてませんでしたね、すみません」

こりゃダメだ（汗）じゃあ5位最後だ〜！

ウインディ

「あら、私にも入ってましたか」

ヒトカゲ

「誰ですか？ お父さんに票入れたの」

ウインディ

「ヒトカゲ、後でちょっと来い（怒）」

彼は頑固なところはありますが、愛すべき父親といった意見です。
案外可愛いところもありますと。

ウインディ

「可愛いだなんて……よしてくださいよ、恥ずかしい」

顔真っ赤……は元からか（笑）

以上で5位は終わりです！ 次は4位！ 1人だけなんですけど、こいつだ！

ゼニガメ

「あゝベスト3逃した〜」

狙っていたのか（汗）単独4位、ゼニガメでした〜！

ゼニガメ

「理由言え理由！（怒）」

あつ、ゴメン（笑）理由は、ヒトカゲの兄貴分として、そして自分の兄思いなところが惹かれたそうです。もう番長とは言えないですね。

ゼニガメ

「はっ、兄さんどうなるんだよ!?!」

カメックス

「俺がどうかしたか?」

で、出てきちゃダメ　　!!

数分後

ゼニガメ

「あれ、ここは何処?　僕は誰?」

ふう、これでよし（笑）

カメックス

「こんなんでいいのか（汗）」

気にしたら負けさ（笑）じゃあ3位にいきましょう!　3位は意外なキャラでした!　どうぞ〜!

カイリユー

「わあ〜僕だっただんだけ」

ヒトカゲ

「ええっ！？ カイリユウなの！？」

私も驚きました(汗)まさかの敵キャラ3位とは……

カイリユウ

「普通はないよね。でも僕はスレイーズのゼスガ元だから、3位の理由もわかるけどね」

あ〜確かに。彼も人気あるからねえ。えっと、知らない人はレンタルビデオ屋のアニメDVDコーナーへ！

カイリユウ

「それはちよつと……(汗)」

それにしても、ホントに意外でした。笑顔で相手を苦しめるキャラは強烈ですね。

カイリユウ

「みんなありがと〜。期待に応えられるように頑張るからね」

ヒトカゲ

「いや、それ困ります(汗)」

うん、私も困ります(汗)じゃあ残すはあと2つ！ それでは2位です！

バクフーン

「やりいゝ！俺だゝ！」

まさか2位とは……サブキャラのくせに……

バクフーン

「それ、失礼だつて(汗)」

彼を選んだ理由をまとめると、陽気で面白くて大食いでカッコいい！
というものになりました。

バクフーン

「いやゝ誉めすぎだつてみんなゝ　ところで作者さん、俺の
は？　は？」

あゝはいはい。まだ先で、私も執筆してません(汗)

バクフーン

「おい(怒)」

その代わりといつちやなんだけど……君が過去にイタズラしまくつたせいでできた、口水島の「掟」あるじゃない？ 気になる読者がけっこういたので、短編をキャラ投票のものとは別に書くことにしました(笑)

エンテイ

「それはいい」

ライコウ

「お前の悪さが読者に伝わるのか」

ニドキング警視

「おーかわいいそ〜（笑）」

バクフーン

「やめてくれや〜頼むからあ〜（泣）」

こないだ無断でお菓子食べた罰だ（笑）

それではお待たせしました、1位の発表ですが……なんと2人いました！

スイクン

「同率1位とは……まさかですな」

ルギア

「確かに。正直なところ、こつこつという者達を読者は好むのかと思わされたな」

ではいつてみましょ〜！

ヒトカゲ

「わーい、1位だ1位だ〜」

バンギラス

「……は！？ お、俺！？」

はい。ヒトカゲ1位はわかりませんが、バンちゃん1位は度肝を抜かれました！

まずヒトカゲから……やっぱり主人公だからって意見が大半でした（笑）

ヒトカゲ

「それ、喜んでいいの？（汗）」

いいんだよ。後は、君の性格が気に入られてるってさ。それと、第17話でお見合いぶっ壊す時の腹黒さが爆笑だとか（笑）

ヒトカゲ

「腹黒……絶対昼ドラの影響だ（汗）」

旅に出る前は1日に1回は必ずテレビ見てたもんね（笑）

ヒトカゲ

「うん。楽しいんだよ？ 女が愛した人が実は生き別れになった兄だけど、その兄は女の友人と恋に落ちたり……」

うわぁ……ドロドロじゃん（汗）ま、1位おめでとう！

ヒトカゲ

「みんな、ありがとうね！」

次にバンちゃん！ 本当にみんなから愛されていました！

バンギラス

「嬉しいな。いや、マジで嬉しいぜ」

思い込みの激しさ、イジられ体質、パートナーがポツポと、どれをとっても最高だそうですよ。

バンギラス

「ちよつと待て、パートナーって……」

もう認めたら？ バンギラス、君はポツポの事……

バンギラス

「ちよつ、俺をおちよくるな！ そ、そんな訳……」

ポツポ

「バンちゃん」

バンギラス

「……ポツポ！？ ど、どうした……？」

ポツポ

「聞いたわよ。バンちゃんって……」

バンギラス

「……」

ポツポ

「イジられ体質だったのね」

登場キャラ達＋作者

『がくつ!?!』

バンギラス

「……そ、そうだ! 文句あるのか? (……一瞬口から心臓が飛び出そうだったぜ 汗)」

と、というわけで、1位おめでとうバンちゃん(汗)

さて、以上でキャラ投票の結果発表を終わります! 続いて……

ゼニガメ

「まだ何かあるの?」

あるから黙ってなさい。えっと、この投票されたキャラ達、総勢13匹の短編の事なのですが、実はあまり詳細が決まっております(汗)

ヒトカゲ

「あれま(汗)」

それに加え、私事ですが……9月に大学のコース分属が控えてまして、8月の期末試験まで手を抜けない状況にあります(泣)なのでこの短編の投稿はおそらく「ヒトカゲの旅」が完結してからになりそうです、ご了承ください(汗)

チコリータ

「でも出来る限り早くやるつもりですよね?」

はい! 何とか1日でも早く投稿できるよう、頑張ります!

ドダイトス

「最後に私が。これからも応援よろしくお願いします！」

私より先に言うな（怒） どうか、最後までお付き合いください！

短編の詳細決定！

短編の詳細が決まりましたので、報告をと思ひまして。

ヒトカゲ

「ただの現実逃避でしょ（汗）」

そうですね（汗）ゲームしたりメールしたり……おかげで気分はとてもいいです（笑）

ゼニガメ

「じゃあ、さっさと紹介しちゃおうぜ」

では早速いきますか！

タイトルとあらすじの紹介になります。全部で13部あります。

1・ヒトカゲの1日

旅に出る前のヒトカゲのある1日を描いたもの。普段口ホ島でヒトカゲが送っていた生活とは……？

2・兄想い（？）なぜニガメ

怪我をしたカメックスのために尋常でないほど気を使っぜ二ガメが、あれこれするお話。

3・腹黒チコリータ

どうしても彼に振り向いてもらいたい……そんな彼女は、あるポケモンからアドバイスをもらうことに……

4・酔っ払いドダイトス

酒豪・ドダイトスが、シラフの時には絶対に見せない素顔が今、明らかになり！

5・カイリユールリュ

本編であまり語られていない、カイリユールとその彼女・リュのあま〜い恋物語。

6・頑固親父ウインディ

絶対自分の考えを曲げようとしないうインディ。そんな彼に最大の危機が！？

7・ピカチュウ・ピチュー兄弟のその後

ヒトカゲ達に会ってから数カ月後、彼らはまだ泥棒をしていた！？
その真意とは……

8・オオタチの日記

趣味で日記をつけていたトリツキーウーマン・オオタチ。その中身を覗いてみましょう。

9・バンギラス今昔物語

昔からイジられていたわけじゃないバンギラス。ヨーギラス時代から今にいたるまでのお話。

10・プテラとルリリ

ある日、追っ手から逃げていたプテラは1匹のルリリと出会う。彼らが一緒に過ごした数日間の物語。

1 1 ・大食いバクフーン

年に1度の大食い大会に出場したバクフーン。しかしそこには物凄い強敵が2人もいた!?

1 2 ・わがままブラッキー

実はわがままな一面を持つブラッキーの、少し女の子っぽい部分に焦点をあてました。

1 3 ・ピジヨット警部の失敗

いつも完璧でありたいピジヨットは、失敗が許せない。そんな彼の犯した失敗とは?

以上、この1 3部分でお送りします。

チコリータ

「いっぱいあるわね、大丈夫なの?」

遅くはなるけど、必ず執筆・投稿致しますので、気長にお待ちください。

あ、この順番どおりではないですよ。

ドダイトス

「作者様、もう一つ言うことが……」

そうでした。この話の中にはコラボ作品が含まれております。キラ貸し出し許可を下さった先生方、ありがとうございます。

バンちゃん

「先生方迷惑だったろうに……」

それとさらに一つ。前にも言いましたが、「口ホ島の掟」も執筆いたします。これらの話の前に書こうかと思えます。

バクフーン

「だからやめてくれってえゝ頼む作者あゝ（泣）」

いくら泣いたってダメだからね（笑）

最初の投稿まで今から1カ月以上かかってしまいそうですが、頑張ります！

カメックス

「こいつのことだ、どうせろくな作品なんか書けやしない。期待するだけ損だ」

……読んで頂けることを願ってます（泣）

打ち上げにて

はーいみんな、お疲れ〜。

全員

『お疲れ〜』

つてなわけで打ち上げが始まりました、と。

ドダイトス

「さ、作者様!?!? これ、酒じゃないですよ!?!?」

当たり前でしょ。酔ったらまともな進行にならないからね、特に君。

ドダイトス

「嘘だろ〜(泣)」

ヒトカゲ

「まあまあ(笑) いやー、でも終わっちゃったね、『ヒトカゲの旅』

」

ゼニガメ

「長かったようで短い期間だったな。……俺にとっいたら長かったけ

どな(汗)」

チコリータ

「そお? 私はまだまだって感じよ」

私は結構ひーひー言いながら書いてたせいか、あっという間だった

よ（笑）

ゼニガメ

「小説書くのやめて学校通うか、学校やめて小説書くかのどっちかにしろよな」

無理言うな随分（汗）

バンギラス

「あゝ作者さん、今だから聞くけどよ、小説書いてよかった事あるか？」

よかった事？ どうせ“俺というキャラと出会えたことだろ”とか言わせたいんでしょ？

バンギラス

「そりゃーもちろん、俺みたいなイジられ……違いーよ！（怒）」

ヒトカゲ

「ここでもイジられるとは（笑）」

ゼニガメ

「しかも自分でイジられてますって認めまし（笑）」

バンギラス

「うるせえ！ おい、真面目に答えろ！（怒）」

はいはい（笑）そうだねえ……まずは小説を読んでくれた人が多かったことかな？

バクフーン

「1月と6月じゃえらい違いだったもんな」

うん、5倍くらい違ってたかな。

チコリータ

「他にはありますか？」

他には……ポケモン小説書いてる他の作者さん達とのフレンドリー（？）な交流が楽しかったな（笑）絵を描いてくれたり、ポケモンの話で盛り上がったり……

ドダイトス

「作者様、友達少ないのですか？（笑）」

違う（怒）私の友達は卒業と同時に全国に散っていったのさ。ある人は東京、ある人は京都、ある人はニュージージーランドとかね。

カメックス

「それが、縁の切れ目だった、と」

だから違うつつの（怒）いっそ右目にも傷つけたるか？（怒）

カメックス

「……悪かった、失明は勘弁だ（汗）」

ヒトカゲ

「“隻眼のカメックス”から“失明のカメックス”……カッコ悪いしね（笑）」

バクフーン

「あとさ、今だからできる話とかないのか？」

今だからできる話？ うーん……1番最初は、設定がかなり異なっていたことかな。

ゼニガメ

「どんな風に？」

ヒトカゲについてなんだけど、リザードンから退化したからプラストバーンを覚えていた、というわけじゃなく、詠唱ができる「ブラストバーン」が使える、って設定だったこと。

チコリータ

「じゃあ、私が詠唱できたら“ハードプラント”が使えるとか？」

そんな感じ。だけどそれだったらただのSF小説と変わりないからね。

ヒトカゲ

「めんどくさー（汗）」

あとはね……バクフーンはバカにする予定だった（笑）

バクフーン

「なぬっ！？ 俺をバカにするだー！？」

でもバカにしたら取り柄がないってことに気づいて、急遽秀才へ（笑）

バクフーン

「……………何か喜べねえ〜（汗）」

それと……………チコリータとドダイトスは出す予定じゃなかった。

チコリータ

「……………首絞めていいかしら？（怒）」

ドダイトス

「……………体に茨トゲを突き刺すか？（怒）」

怒るなつて（汗）ヒトカゲ、ゼニガメときたらフシギダネ、っていこうかとも思ったけど、見た目的にも花がなくなっちゃうからメスの草ポケモンを……………と思つて、チコリータを採用。

チコリータ

「へえ〜そうだったの」

ドダイトスは……………小説書き始めた時に存在すら知らなかったから（笑）

ドダイトス

「酷っ！？（泣）」

いや泣かなくても……………（汗）第1話の1番最初に言ったこと覚えてる？『金・銀ベースで』って言ったじゃない。あの時全然DPtの事について無知だったからね。1月にプラチナやって存在を知つて、カツコよかったからゲスト採用、みたいな（笑）

ドダイトス

「まあ、いいか。出演できたわけだし」

あと最後は……初めてカイリユウの攻撃を受けた後、ゼニガメ達を病院に運んだのは、カメックスじゃなくスイクンという設定だった。

カメックス

「……………納得のいくように説明してもらおうか？」

当初の予定では、最終決戦ではヒトカゲ、ゼニガメ、チコリータ、ドワイトス、ルギア、そして番人達でやるつもりだったの。

バクフーン

「俺入ってねえじゃねーか！」

ちよつと黙って（汗）で、カメックスもホントはカメールのまま見つかって、再会できたなら家に帰って弟の帰りを待ってるって設定だったんだけど、「これじゃ情けねえ兄貴だな」って思って（笑）

そしてカメックスとして出すためにいろいろ考えて……ああいう形での登場になったと。で、このまま最終決戦すると、チコリータとドワイトスで草2匹、ゼニガメとカメックスで水2匹、ヒトカゲで炎1匹ってなって、何かつり合わないって思ったのと、最終決戦前にたった4話しか出てなかったバクフーンが人気だったため、再登場させましたよ、という理由。

カメックス

「それで、隻眼にしたのには理由あるのか？」

……………ない。遊びです（笑）

ヒトカゲ

「カメックスとバクフーン兄ちゃんが決戦に出たのはわかったとして、じゃあ何で番人達を参加させなかったの？」

それは続編で明かしますよ。

ゼニガメ

「そっかあ……ん？」

バンギラス

「今……何つつつた？」

『続編で明かしますよ』って言ったけど？

全員

『……続編やるの　！？』

あれ、言ってなかった？

チコリータ

「聞いてないわよ！　えっ、あれで終わりじゃなかったの！？」

これも今だから言えるけど……ミユウツー倒して終わりのつもりだったの、最初は。だけど3月くらいにある作者さんと話したら、あの設定がビックリするくらい一致してたっていう事態が起きたの。そこでいろいろ考えた結果、初期設定とは全く違う設定をあれこれ考えたら……うまい具合に繋がるようなストーリーが振ってきたわけ（笑）

カメックス

「それが続編にあたるってことか」

そゆこと。

ヒトカゲ

「え〜じゃあ大して休みないって事じゃない〜」

そうなりますね（笑）だからみんな、また当分の間、私の元で働いてもらうからね（笑）

というわけで、続編を書くことが3月には決定していたのにも関わらず、何も宣伝せず……サプライズ形式での発表となりました（笑）ではここで……続編小説の「予告」をしたいと思います。それでは、どうぞ！

「望み……それは“滅び”。そう、滅びだ……」

記憶の戻ったヒトカゲが、今度は新たな地方で、新たな仲間と旅に出る！

もちろん、旧メンバーも多数登場！

前作で明かされなかった事が、全て明かされる。

続編『ヒトカゲの旅 SE』 2009・8 公開！

……っつとどで。

ヒトカゲ

「ちょ、ちょちょちょ待つて！ いろいろわからない事だらけなん
ですけど!？」

ゼニガメ

「いきなり言われても困るぜ!？」

チコリータ

「しかも大して明らかにしてないし……」

ドダイトス

「作者様、もう少し情報を……」

ノーコメントで（笑）これ以上は極秘ですから（笑）

バンギラス

「しかも旧メンバーもってことは……」

バクフーン

「だから俺らをここへ呼んだんだな!？」

カメックス

「……くそっ！ はめられたのか!」

そういうわけで、私はまだまだ書き続けます。続編の執筆にあたり、
短編集の執筆は同時平行でのんびりやらせて頂きます（汗）ですの

で、これからもポケモン小説を書いていきます！ よろしくお願
い
します！

全員

『謝れ ！！(怒)』

……では！ 〓〓(^ | ^) /

速報とか

ヒトカゲ

「……あれっ、僕達戻ってきてる!？」

ゼニガメ

「ホントだ! どうなってんだ!？」

あっ、みんなおかえり。

チコリータ

「作者さん! 私達『バクフーン達の冒険』の世界に飛ばされて…
…」

今一時的に私が君達をこちらに戻したんだよ。

ドダイトス

「作者のご都合ってやつですか(汗)」

そゆこと(笑)

バクフーン

「で、都合って何だよ? 作者紹介か?」

バンギラス

「なんか流行ってるみたいだな」

違いマース。私は昔にしまシートから。

カメックス

「いいから早く進めろ。眠い(怒)」

はい(汗)今日は……続編『ヒトカゲの旅 SE』の最新情報をお届けします！

ヒトカゲ

「何そのポケサンのなノリ(汗)」

いや、もうウズウズしちゃって(笑)

ゼニガメ

「ところでよ、SEって何だよ？」

チコリータ

「あつ、私も知りたい！」

それね。それはね……バクフーン、この英語読んでくれ。

バクフーン

「Second EpisodeとSpecial Episodeだな。ってかこれくらい作者でも読めるだろ(汗)」

もう勉強やだ(汗)

SEとは、2つ目の物語、そして特別な物語も入ってるという意味ですね。

ドダイトス

「前者はわかるとして……特別な物語とは？」

それは君達の物語だよ。前作で語られていない、君達のお話が入ってるってわけさ。

カメックス

「ほう……」

バンギラス

「作者さん、ヒトカゲに新しい仲間ができるって書いたよな？ 誰だ？」

「いえません（笑）まあ、私の好きなポケモン達ってことだけは言うておきましょう（笑）」

バクフーン

「えっと、作者が好きなポケモンは……ぐふっ！」

ヒトカゲ

「あつ、バクフーン兄ちゃん倒れた（汗）」

まったく、油断も隙もあつたもんじゃない（汗）前は番長、お嬢様、警備員という異色な組み合わせでしたが、今回はどうなるのか……お楽しみに（笑）」

ゼニガメ

「続編でも、アイランドを旅するのか？」

「いいえ、アイランドを飛び出します！」

チコリータ

「えっ、どこになるのですか？」

これは言ってもいいかな。アイランドから少し離れたところにある大陸『ポケリス大陸』が舞台。

バンギラス

「へえ〜。ポケリスってどんな意味だ？」

意味？ ないよそんなもん（笑）

カメックス

「それで、ヒトカゲが旅をする目的は何だ？」

それは秘密。言えるのは……旅をする目的は2つあることだな。

ドダイトス

「なんか、今までより大変な旅になりそうですね」

あ〜そうそう。今回の旅はとんでもなく大変だから。

ヒトカゲ

「嫌だ〜（汗）」

もう遅い（笑）既に第3話まで書いてあるからね（笑）

バクフーン

「あと聞きたいのが……」

あっ、起きたのか（汗）

バクフーン

「続編以外に新連載の小説を考えてるんだろ？」

どっからそんな情報を（汗）確かにそうだけど、作者病気につき執筆休止中。当面は続編1本と短編集でやっていきます。

ゼニガメ

「さすが、メタボなもやし……ぐえっ！」

中肉中背と言え（怒）しかも意味わからんし。

チコリータ

「そういえば、旧メンバーって、私達以外に誰が出るのかしら？」

ドダイトス

「確かに気になりますね、お嬢」

ん〜……想像すればわかると思うよ。敢えて言いませんが。

バンギラス

（ポッポ出してくれねえかな……そうなれば、俺は……）

“ポッポを料理できるのに”って言いたいの？

バンギラス

「タマゴを食べ損ねたからな、どんな手を使つてもアイツを……
つて、イジンじゃねー！（怒）そして心を読み取んな！（怒）」

作者の特権さ（笑）それくらい予想するんだねバンちゃん

バンちゃん

「だぁーっ！！（怒）」

カメックス

「おい作者、イジってばかりいないでこっちやれ」

あつ、そうでした。実は1つ、企画がございます。

ヒトカゲ

「何なに？ 今度は何するつもり？」

えっとですね、うちのキャラ達に聞きたい事を募集します！

ゼニガメ

「……は？ どういう意味？」

例えば、「カメックスは料理できるの？」みたいな質問を読者のみなさんから募集したいのです。こう何も投稿しない間って、案外寂しいもんでね（汗）かといって今は忙しくて執筆に専念できないから、こんな事をしてみようかと。

チコリータ

「ちなみにカメックスは料理できますの？」

カメックス

「ある程度はな。だが所詮男の料理だ、雑になる」

ま、大体の質問には答えられますので（笑）ネタバレや危ない質問は答えられないので、そういうのは却下させていただきますね。

期間は特に設けません。ある程度溜まったらこの場で答えてもらお

うかと思いません。

バクフーン

「しかし、こんな事よく思いついたな」

実は前にね、作者メッセージで私に「大学どこですか？」って質問があったのよ。ちょっとそういう質問はここでは答えられないんでね（汗）代わりにキャラ達ならプライバシーとか関係ないなって（笑）

ドダイトス

「いやいや、プライバシーありますって（汗）」

聞こえない（笑）で、質問方法ですが、評価・感想欄『以外』でお願いします。質問はいくつでもOKです。全部にお答えできるわけではないので、それは予めご了承ください。

バクフーン

「ファンレターでもいいぞ！ 俺への愛のメッセージ……くーっ、たまらん」

バカか（汗）でもいつか（笑）もしもファンレターがきたら、紹介させてもらいますね（笑）

ヒトカゲ

「続編、もう少し待っててね〜！」

作者の部屋 乱入！？（前書き）

ここで近況をお知らせします。

短編集 ゆっくり、着実に進んでおります。今月中に1本は投稿できそうです。

質問コーナー すっかり忘れてました（汗）近いうちに集計してここに投稿します（汗）

作者の部屋 乱入!?

ヒトカゲ

「作者さ〜ん」

ん？ ヒトカゲ！？ ちょっと、ここ私の部屋じゃないか！

ゼニガメ

「まあいいじゃねえか。カタい事言っなよ」

全然カタくないんだけど（汗）ってかどうしてここに来たのさ!?

チコリータ

「決まってるでしょ。私達が出番ないからよ」

あのねえ、コラボしてるから出番あるでしょう。だから……

ドダイトス

「うわ、狭いですね」

お前がでかいだけだ（怒）

バンギラス

「邪魔するぜ〜!」

サイクス

「俺も〜」

カメックス

「……ゼニガメが心配だからついてきただけだ」

あゝあ、旧チームのメンバーが全員来ちゃった(汗)

ヒトカゲ

「作者さん、それパソコン？」

そうだよ。これで音楽を聴きながら君達のお話を執筆しているのさ。

ゼニガメ

「壁紙何なんだろ……えっ、カメ？」

勝手にいじるな(汗)そう、カメだよ、このキャラも。

ドダイトス

「何か俺達よりカッコいい奴らだな(汗)」

当たり前だよ。特に赤いのと青いのは君達じゃ足元にも及ばないよ

(笑)

カメックス

「何か胸くそ悪いな(怒)ん？ 何だこれ？」

それは……MD部分が壊れたMDコンポ(笑)今はラジオ聴くのにしか使っていない。

チコリータ

「意味ないですね(汗)」

サイクス

「おつ、ギターにキーボードじゃんか！」

バンギラス

「音楽好きなのか？」

まあね。あんまりいじらないでほし……

サイクス

「うおつ、ハーモニカまであるぜ！」

いじるなっつってんだろ(怒)

ヒトカゲ

「痛っ！ 何かにつまづいた〜」

あゝ、私の教科書が(汗)

ドダイトス

「本棚とか机に置けばいいじゃないですか」

見ての通り、置き場なんかないんだよ。だから教科書は床にタワー形式で置くしかないのさ。

ゼニガメ

「本棚に空きが……ホントにないな(汗) しかも中途半端にポケスペがある(汗)」

チコリータ

「初代・イエロー・金銀・ナナシマ編……確かに中途半端ね(汗)」

うっ、そんなとこ見るんじゃない(汗)

バンギラス

「おっ、ピカチュウの人形じゃん。あとモンコレのルギアか」

ルギアだけは絶対に触るなよ！(怒)

バンギラス

「わ、わかったよ……(汗)」

カメックス

「おいおい、本棚にゲームしまってるのかこいつ」

サイクス

「ポケダンに、ぷよに……あれ？この紙何だ？」

あっ、それは見るな！

サイクス

「給与明細……え〜と金額は……」

うらあっ！(怒)

サイクス

「いつ……痛でええええ!!」

ヒトカゲ

「そんなに見られなくなかったんだね(汗)」

ゼニガメ

「DS Lite発見 色はクリムゾンノブラックか」

チコリータ

「ゲーム機これだけなんですか？」

うん。だけど年内にはWii買う予定。

バンギラス

「おいみんな見てみ！ 学生証だぜ！」

げっ！（汗）

カメックス

「随分と変な顔してる写真だな」

か、返せっ！（汗）

カメックス

「そうはいかねえな。返してほしけりゃ、俺の条件を飲んでもらおうか」

何か悪役になってる（汗）条件って何？

カメックス

「俺とサイクスとバンギラス、3人のイラストを描け」

バンギラス

「おっ、いいなそれ！」

サイクス

「そついや俺達って描いてもらった事ないよな？ ナイスカメックス！」

え〜？ めんどくさ……

カメックス

「もし飲まねえっつーなら、学生証に載ってる個人情報をごちまけるぞ」

半ば強制やん（汗）

カメックス

「さあ、どうする？ 俺は気が短えんだ。早くしねえと大変なことになるぜ？」

……仕方ない、描くから返して。

サイクス

「いえ〜い！」

バンギラス

「やったな！」

カメックス

「ほらよ、返してやる。てめえは最初から素直に俺の言う事聞いてりゃいいんだよ」

ゼニガメ

「兄さん……（汗）」

何かイラつくな（怒）ほら、気済んだでしょ？ 早く帰り……

ヒトカゲ

「……zzz……」

チコリータ

「……zzz……」

ドダイトス

「おい、酒これだけしかねえのか〜!？」

……もうヤダこいつら（泣）

質問コーナー

皆さん、ハートゴールド・ソウルシルバーをお楽しみでしょうか？
こんばんは、いつかはWCSに出場してみたいと思いつながらポケモンについて勉強中のLinoです（笑）

ゼニガメ

「いやどうでもいいから（汗）」

チコリータ

「今日は何するの？」

今日は、大分前から溜まっていた、君達への質問をどばーっと答えてもらいます。

ヒトカゲ

「いっぱいない？」

いっぱいあります（汗）時間ないから次々答えてもらっよ！
じゃあまずはこの質問から……

・ヒトカゲは彼女とかいる？

ヒトカゲ

「……………いないよ？」

ゼニガメ

「じゃあ何だよ今の間は!?(汗)」

ヒトカゲ

「き、記憶を辿ってただけ」

ドダイトス

「怪しいな。正直に吐けばいいだろう」

ヒトカゲ

「いないよ! (……今はね)」

・ヒトカゲに苦手な食べ物はあるか?

チコリータ

「なさそうよね? うちで出した料理はしっかり全種類食べてたし」

ヒトカゲ

「実は、1つだけあるんだ」

ドダイトス

「何が苦手なんだ?」

ヒトカゲ

「……リサが作ったポフィン(汗)」

ゼニガメ

「何でだよ？」

ヒトカゲ

「リサ、僕達の事を考えて作ってくれるのはいいんだけど……いろんなきのみを混ぜすぎてるんだと思う（汗）リサのポフィン食べたハッサムなんか、マジギレしてたもん（汗）」

チコリータ

「そ、それは……食べない方がいいわね（汗）」

・カメックスは弟ゼニガメに弱いのか？

カメックス

「弱いだと？ 俺のたった1人の家族なんだ。何でもしてやるって言い方が正しいな」

でも弱いのは本当でしょ？（笑）

カメックス

「……まずてめえをここで殺つてやる（怒）」

ゼニガメ

「ここで作者さん殺したらSEで俺の出番なくなるから止めてね、兄さん。止めないと口きかないから」

カメックス

「……今回は見逃してやる。感謝しろよ」

ほら、弱い（笑）

・バンちゃんがポツポと初めて会った時の事を聞きたい

バンちゃん

「どうやって会ったかは、第8話に書いてあるよな？」

違う違う、気持ちだよ気持ち（笑）

バンちゃん

「え、ああそついう意味か。なんつーか……動物にしるポケモンにしる、赤ちゃんって可愛いだろ」

まあね。

バンちゃん

「それにタマゴが孵ったらポツポで、俺にとったら手のひらサイズだからよ、尚更可愛く思えたぜ」

ほうほう、それで？

バンちゃん

「んで、このまま放っとくわけにもいかねえから、俺が世話したってわけよ。したら本当に俺の子のように思えてきて……」

サイクス

「結婚、と」

バンちゃん

「まだ婚姻届を出し……って、てめえ何言わせんだ！（怒）」

結婚まで秒読み？ この真相はいつか書きましょう（笑）

・平和な時が過ごせるなら、何をしたい？

うぐん、出てきたキャラ皆が書いて書いてあったんだけど、全員
思い出せません、ごめんなさい（笑）

ヒトカゲ

「しっかりしてよ（汗）」

じゃあみんな、言っちゃって

ヒトカゲ

「僕はとりあえず遊びたい！」

ゼニガメ

「俺は兄さん戻ってきたから、俺も遊びたいな」

チコリータ

「私はお勉強。もっといろんな事学んでみたいです」

ドダイトス

「私は……ずっとメガ家の警備をやっていたいです。それで十分です」

バンギラス

「チコリータ目当てか？（笑）俺は父さんみたいになりてえから、警察官目指してみるかな」

ポッポ

「じゃあ私は婦警かな？」

コロー

「一緒かよ（笑）俺はヒトカゲ達みたく旅してみてーな！」

ブイ

「私も私も！ アイランドも全部回ったことないもん」

カメックス

「俺はポケ助けを続ける。それだけだ」

サイクス

「それはやだ（汗）俺は……悪いけど秘密」

ウインディ

「私は今まで通りの生活が遅れれば十分ですな」

デルビル

「俺ヒトカゲがいればなんだっていいー」

オオタチ

「盗み！」

アーボック

「泥棒！」

ペルシアン

「窃盗だ！」

ピジヨット警部

「どれも一緒だろ（汗）私は昇格したい」

ニドキング警視

「じゃあ私は現場で働く刑事に戻りたいな」

ゴースト

「俺、村長の座を奪いたいだ」

フーデイン

「ワシはずっと村長でいる。これに限るな」

プテラ

「俺はギャンブル……って言いてえけど、社会奉仕でいきまっせ」

ブラッキー

「私は自分探しの旅に出たいわ」

カイリユウ

「どうしよう……僕、いろいろあって決めれない(汗)」

エンテイ

「私は以前みたく、アイランドの警備をしてみんなの顔が見ればいい」

ライコウ

「俺もエンテイと同じだ」

スイクン

「私もこの2人と同じだ」

ルギア

「私は友と世界中をゆつくりと見て回りたい。この世界を、ポケモンを、把握したい」

リサ

「ポケモンばかりの中に私いていいのかしら？(汗) 私は全リーグ制覇よ！」

ルカリオ

「俺は探検家を……」

あ、君、呼んでないから帰って(笑)

ルカリオ

「けっ！ いいじゃねえかよ(怒)」

今日はこんなとこですかね。質問は随時受け付けておりますので、

お気軽にメッセージの方へどうぞ。

サイクス

「作者、作者！」

…… あっ、君へのファンレターあったね（笑）

「水タイプが好きですが、バクフーン（サイクス）さんの強さで炎タイプが好きになりました！ 応援してますので、これからの登場頑張ってください！」だって。

サイクス

「うひょーっ マジで嬉しいぜ！ ファンレターサンキューな！」

はい、これで満足ですか？

サイクス

「何だよその言い方（汗）」

登場キャラ紹介……と？

さて、私はあることを忘れておりました。

てつきり、前作のメインキャラの紹介は終わっていたとばかり思っていました。が、こいつが怒鳴り込んできたのをきっかけに思い出しました。

カメックス

「……死にてえのか？（怒）」

はい、カメックスの紹介を忘れていたんです（汗）

それもそのはず、前作では潜入捜査してたから味方として活躍するのが第53話というかなり遅い時期だったし、わりと早くSEの連載始まつちゃったからね（汗）

カメックス

「言い訳に過ぎん。覚悟しろ（怒）」

待ちなさい、ちゃんと今からやってあげるから（汗）

サイクス

「そうだが、あんまカッカするなよ」

バンちゃん

「それにSEでもう出番あったじゃねえか。それだけでもいいじゃんか」

カメックス

「……作者、とつと始める」

はいはい（笑）ついでだから、SEキャラも紹介しちやいますか！

ルカリオ

「おっ、俺らもやってくれるん!？」

アーマルド

「嬉しいな、紹介してくれんの」

じゃあまずはカメックスから。

・カメックス

ゼニガメの兄。ポケ助けのエキスパートで、ゼニガメと一緒に「チーム・ブラスタス」で活動中。

基本的に口数は少なく、笑うこともない。その性格と隻眼のおかげで恐がられることが多いが、ゼニガメに少し甘いところもあり、表には出さないが優しい性格である。ソーダアイスと酒が好き。

サイクス

「そういや、カメックスの笑ったとこ見たことねえな。ニカッツ
てしてみてくれよ」

カメックス

「冗談じゃねえ。誰がするか」

ルカリオ

「いいじゃんか、ケチくさいな」

カメックス

「……来い！（怒）」

ルカリオ

「えっ、聞こえてたあ〜！？（汗）」

あらあら、連れてかれちゃった（汗）じゃあ次いきますか（笑）

バンちゃん

「全然心配してねえだろ（汗）」

・ルカリオ

探検家。小さい頃に行方不明になった父・ライナスを捜しつつ旅をしていた。

何かにつけよくキレる。だが仲間を想う気持ちは誰よりも強く、そのせいで被害を被ることが多い。

ヒトカゲと同じく詠唱ができるが、何故できるかは今の段階では不明。

・アーマルド

両親を事故で亡くした孤児。辛い日々を送っていたが、ヒトカゲ達と出会うことで気持ちが開きつつある。

ちよっとズルい性格。それにヒトカゲとルカリオはまだ気づいていない。貧乏性はまだ治らず、食事や金にがつつく。

こんな感じでしょうかね。まだ言えることが少ないのでこれだけです(汗)

アーマルド

「十分だつて」

ありがとう。君くらいだな、まともなメインキャラ。

サイクス

「俺がまともでないってか？ この天才サイクス様が？」

うん(笑) そんな事言ってる時点でアウト(笑)

バンちゃん

「確かに(笑)」

これでキャラ紹介は終わりにして……実はもう1つあります。

ヒトカゲ

「やっと呼ばれた」

ゼニガメ

「俺らいなきやダメなの？」

ダメだよ。

この1週間かけて、私は「ヒトカゲの旅 SE」のイメージソングを勝手に決めてしまいました！（笑）

ヒトカゲ

「何でまた（汗）」

前作の感想で、「曲聴きながら読んでます」って言ってくれた読者様がいて、これちょっといいかもって思ってたね（笑）

結構大変だったよ、パソコンの中に入ってる2000曲全てチェックしても見つからず、いろいろ動画サイトとか巡ったりしてようやく見つけたんだから（汗）

ドダイトス

「ある意味執念ですね（汗）」

チコリータ

「それで、何に決まったの？」

え、作者の独断と偏見で勝手に決めました、「ヒトカゲの旅 SE」のイメージソングは……

水樹 奈々さんの「ETERNAL BLAZE」になりました！

理由ですが……歌詞がわりとSEと近い内容になっていたり、聴い

てすぐに気に入ったり（笑）

ヒトカゲ

「そうなんだ〜」

私の知らないアニメのOPみたいですが……気にしたら負けってことで（笑）

聞いたことない人はYouTubeとかで検索してみてくださいな。

ゼニガメ

「はいはい、じゃあ帰りましょうね〜」

えっ、ちょっと、まだ話が終わってないよ！（汗）

チコリータ

「合ってるかもって思った人がいれば、メッセージでこっそり教えてくださいね」

ドダイトス

「じゃあ、みんな帰りますか」

バンちゃん

「そうすつか。眠いしな」

サイクス

「もうこんな時間だしな〜」

アーマルド

「じゃあ、またね」

ちよつとー！！
(汗)

1周年企画

2010年になってしまいましたね。皆さん、あけましておめでとうございます。

ヒトカゲ

「あけましておめでとう〜」

さて本題に入りますが、本日1月2日は、私が「ヒトカゲの旅」の連載を開始した日……1周年を迎えることができました。

ゼニガメ

「ほお〜1年かあ」

そして、前作で65話、今作で35話を投稿したので、ヒトカゲシリーズで通算100話になりました、と。

チコリータ

「で、ここでそれを報告するってことは……」

そうです。記念企画しちゃいます。

ドダイトス

「投票でもするんですか？」

いえ、投票ではございません。今回は……通知表です！

全員

『……はい？(汗)』

読者の皆様に、うちのキャラ達に通知表を書いてもらいます（笑）

バンちゃん

「は、は？ どゆこと？」

では説明しましょう。読者の皆様の好きなキャラについて、

- ・採点（100点満点）
- ・ほめるところと改善するところを含んだコメント
- ・一言（任意）

を、考えてもらいます。例は以下ようになります。

Linoさんからの通知表

ヒトカゲ 80点

君はどんな困難にも屈することなく、勇敢に立ち向かっていく姿勢は素晴らしいです。ですが、普段があまりに子供っぽく、いろんなポケモン達に迷惑をかけることもあるので、気をつけましょう。

……といった感じですよ。

サイクス

「通知表かぁ……懐かしいけど、やだな（汗）」

カメックス

「俺に100点以外つけてみる。そうでなければ……わかるよな？」

脅しはやめなさいって（汗）

あと言わなきゃいけないのは……そうそう、制限はありません。おひとり様何匹分でもOKです。名前を公開されたくない人は、ペンネームを添えてください。

そして期限は1/16（土）までとさせていただきます。

尚、感想欄へ送信されたものは全て無効とさせていただきます。作者メッセージ、もしくは私のケータイへ送信してください。

ルカリオ

「俺はいい子だったよな？　じゃあ100点に決まってるだろ」

アーマルド

「とりあえず、誰でもいいからつけてくれ」

それでは、たくさんの採点、お待ちしております。本年もよろしく
お願いいたします。

1周年企画 採点結果

はい、ようやく集計終了しました。

ヒトカゲ

「そんなに多かったの？」

いいや、パソコンいじる時間なかっただけ（汗）

参加なさってくれた4名の先生方には、感謝申し上げます

ルカリオ

「ほゝ4名か。作者にしては上出来じゃねえか（笑）」

（…………後でどうなるか覚えとけ 怒）

さて、早速届いた通知表をみんなに返しますか！
まずヒトカゲ、おいで〜

ヒトカゲ

「嫌だな〜こついうの（汗）」

・バクフーンさんからの通知表

ヒトカゲ 90点

様々な困難に仲間と一緒に立ち向かう…………小さな身体だけど、諦めないあなたの姿は素晴らしいです。
子供っぽいヒトカゲ、好きだよ（笑）

・みぞれ雪さんからの通知表

ヒトカゲ君…… 95点

子供らしくて優しく、“ヒトカゲ”という種族のイメージにピッタリです。

ただ、その可愛い容姿の割に食べ過ぎですよ（笑）

このギャップには周りも困る時があると思うので、頑張つて食べる量を減らすか、ディアルガに会つて進化をしないと良いかもです
ねw

・富嶽 零さんからの通知表

ヒトカゲ 95点

子供っぽく、自分の考えにまっすぐで純粋なところが好き。また、食いしん坊というスキル（？）もかわいらしい。

ヒトカゲ

「やった、高い」

ゼニガメ

「お前好かれてるな、やっぱ主人公だな」

やはり実年齢より子供っぽいところに評価が集中していますね。

ドダイトス

「……ところで、私達の年齢、1回も公開してませんよね？」

プライバシー保護のため、非公開にしています（笑）まあ、完結したらどばつと言っちゃうかも？

ヒトカゲ

「ね、年齢は言わないで！（汗）」

ルカリオ

「あつ、焦り始めた（笑）」

じゃあ次、ゼニガメおいで！

ゼニガメ

「マジ勘弁して〜（汗）」

・みぞれ雪さんからの通知表

ゼニガメ君…… 95点

面倒見がよく、おおざっぱでも優しくくて……。

彼もまた、“ゼニガメ”という種族のイメージピッタリで気に入ってます（笑）

……でも、まあいろいろやらかしちゃったこともあるので、1000点はあげられないかしら（笑）？

・富嶽 零さんからの通知表

ゼニガメ 70点

前作同様、ヒトカゲを補助する役に加えて、兄カメックスをも補助する役がよかった。
これからの活躍に期待。

まっ、こんなもんでしよう。

ゼニガメ

「ちよちよちよ、もうちよいコメントしろよ(汗)」

仲間達の面倒見がよかったのでしよう。再会できたカメックスとの兄弟愛も伝わったんだろうね。以上。

ゼニガメ

「い、以上!?! ないわ(泣)」

ヒトカゲ

「まあまあ(笑)これからもよろしくね、ゼニガメ」

カメックス

「……誰だ、弟泣かせた奴は(怒)」

さ、さあ次はチコリータいってみよう!(汗)

チコリータ

「あら、私にも評価きたの?」

・みぞれ雪さんからの通知表

チコリータちゃん……87点

恋をする姿はかわいらしく、まさに女の子!一途で良いですね。
応援したくなります

……ですが、時々暴走して黒くなってしまっようなので、気をつけ
ましょう(笑)

ところで、恋のお相手とはどうなっていますか?(笑)

チコリータ

「えっ……そ、そんな質問するの!?(汗)」

ドダイトス

「そうですね! 決めてあんな事やこんな事なんてし……」

チコリータ

「はいそこ喋らない!(怒)」

ドダイトス

「ぐはっ!?!?」

うん、これなら大丈夫だな（笑）

アーマルド

「なにが大丈夫なんだ？（汗）」

気にしない（笑）じゃあ次はドダイトスだけど……立てる？

ドダイトス

「あ、ああ、何とか……」

・みぞれ雪さんからの通知表

ドダイトスさん……85点

強いし頼りになるところはとても素晴らしいです！
……ただ、お酒には気をつけてくださいな（汗）

バンちゃん

「やっぱりこいつの酒乱は問題だよな」

ドダイトス

「俺、そんなに酷いのか？」

自覚すらしてないという（汗）これは重症だ（汗）

ドダイトス

「うーん、だけどそんなに飲んでないぞ？ 俺の1回あたりは2リットルくらいだぜ？」

バンちゃん

「近いうちに死ぬぞー！（汗）」

さて、次いきますか（笑）次はバンちゃん！

バンちゃん

「ういゝつす。どれ、覗いてみつか」

・バクフーンさんからの通知表

バンギラス 85点

誘拐犯に間違われたりイジられたりしてもめげない……そんなあなたが大好きです（笑）バンちゃん、これからも頑張り！

バンちゃん、「頑張り！」だって（笑）

バンちゃん

「俺は今まで頑張ってたって意味か？」

誰も君をカッコいいとは言っていないからね（笑）ただイジられてき

ただけじゃない(笑)

バンちゃん

「冗談じゃねー！ こうなったらイジられキャラ脱却してやる！」

そしたら人気なくなるかもよ？

バンちゃん

「……それはやだ(汗)」

なら頑張りなさい(笑) じゃあ次はサイクスだな。

サイクス

「その辺投げといて」。今15連鎖が……あーっ！ 自爆(泣)」

じゃあ見なさい(笑)

・富嶽 零さんからの通知表

サイクス 100点

今までの、陽気で大食いというところだけでなく、SEで見せた父親とのすれ違いでの涙に感動。これからも頑張ってもらいたい。

ま、まさかの100点(汗)

サイクス

「ほーっ、さすが、見る目あるぜ」

ルカリオ

「凄えな。弱み握るようなところってないのか？」

それは過去の自分だろうね。いたずらしまくってライコウとかにお仕置きされた過去を（笑）

エンテイ

「懐かしいな。久々にするか？」

ライコウ

「賛成だ。サイクス、ちょっと来い」

サイクス

「あんたら何でいきなり現れるや否やお仕置きを！？（汗）」

行つてらっしゃ〜い（笑）じゃあ次は兄貴……

カメックス

「事前に言つたからな、100点で来るはずだ」

・バクフーンさんからの通知表

カメックス 60点

ポケ助けをしているあなたは素晴らしいと思います。ただ……好きなアイスを落とされたりとほんの些細な事で相手を半殺しにするのはダメですよ。最後に……兄貴ごめんなさい（汗）

・富嶽 零さんからの通知表

カメックス 80点

SEで、ルカリオのストッパー役がおもしろかった。また、弟に甘い点が自分的にクリーンヒット（笑）

カメックス

「……ごめんなさいだと？ 死にてえからこんな点つけたんじゃないかねのか、あ？（怒）」

みなさん断腸の思いで評価してくれたんだから……

カメックス

「はん、戯言ぬかすな。どうせこんなことだろうと思ってたぜ」

ルカリオ

「60点とか……（笑）」

カメックス

「……てめえは黙ってる！（怒）」

ルカリオ

「がはっ!?!」

カメックス

「次こそ本当に殺してやっからな、首洗って待ってる(怒)」

ゼニガメ

「兄さんとルカリオが仲良くなる日、来るのかな(汗)」

どうでしょうね(笑)それじゃあラスト2、ルカリオ。

ルカリオ

「俺は大丈夫さ。いい子にしてたから……」

・バクフーンさんからの通知表

ルカリオ 70点

仲間想いな君はとても素晴らしいです。しかし、短気なところは直したほうが良いでしょう。

・みぞれ雪さんからの通知表

ルカリオさん……93点

キレイキャラなのはむしろプラスかと(笑)

真剣なバトルの時はカッコいいのに、ギャグシーンでも活躍できるのは素晴らしいです(笑)

ただ、アーマルドさんにはもう少し優しくしましょうね(汗)
時々仕打ちがひどいことがw

・春野ツバサさんからの通知表

ルカリオ 86点

いつもあなたは他の仲間達のことをちゃんと纏めるしっかり者です。また、危険に巻き込むまいと一人でジュプトルに挑むなど非常に仲間想いなのもうかがえます。ただ、ちよつと怒りつぱいのももう少し自重するよう気を付けましょう。

・富嶽 零さんからの通知表

ルカリオ 75点

探検家としての正義感を常に持ち、曲がったことを嫌う姿は男らしい。ただ、もう少し仲間（特にアーマルド）に優しくしてあげてほしいと思う。

みなさんの評価は一致してますね。「アーマルドに優しくしろ」ってこと（笑）

ルカリオ

「何言っただよ。俺は十分あいつには優しいぜ？ なつ、アーマルド」

アーマルド

「すぐに殴ってくる奴のどこが優しいんだよ？」

ルカリオ

「……後でちょっと来い（怒）」

ほらそこだつて（汗）

だけど人気あるみたいだね、全員が採点してくれてるよ。

ルカリオ

「純粹に嬉しいぜ。もっと活躍できるよう、頑張ってみるぞ」

あつ、そういえばこんな意見も……

『一言言つなら、お手とおかわりを覚えましょうって所ですかね（笑）』

ルカリオ

「……言つた奴出て来いや！ ぶん殴つてやる！（怒）」

じゃあ最後、アーマルドだよ！

アーマルド

「ホントに俺に評価きたのか」

・みぞれ雪さんからの通知表

アーマルドさん……85点

徐々にヒトカゲ君達に心を開く様子には、読者や仲間感動を与えてくれるかと……

ただ、ドジなのに注意したほうがいいですね（笑）

あと、ルカリオさんがカメクスさんにボコられてる時には笑ったりしないほうが身のためかな（笑）？

・春野ツバサさんからの通知表

アーマルド 82点

あなたは他の人が気付かないような細かい所まで仲間の事をちゃんと見ている所が素晴らしいです。

ただ、少し無口な所が難点なのでもう少し他の人に心が開けるようになるの良いですね。

・富嶽 零さんからの通知表

アーマルド 90点

孤児のころに比べて徐々にヒトカゲたちに心を開き始めている姿に感動。

もう少しズルいところを見せてほしい。

アーマルド

「……………（泣）」

ど、どうしたのいきなり泣き出して（汗）

アーマルド

「だって……俺に、こんな事言ってくれるなんて……こんな事言われたことないから、嬉しくて……（泣）」

ルカリオ

「お前……」

ヒトカゲ

「よかったじゃない、アーマルド」

ゼニガメ

「そうだな、変わったからな」

サイクス

「かぁ〜泣かせるなこいつ！」

チコリータ

「ホント、その姿が素敵よ、アーマルド」

うんうん、頑張ってるよアーマルド。よかったね。

アーマルド

（……）やっぱ泣けばみんな同情してくれんだな。もうちょいやってみっか）

カメックス

「……今、何だった？」

バンちゃん

「聞き捨てならねえな、その言葉」

アーマルド

「えっ、何？（汗）」

ドダイトス

「死亡フラグですね、ご冥福をお祈りいたします」

……とまあ、皆さんが私のキャラ達をよく見てくれていることがわかり、私としてはとても嬉しかったです。
以上で、1周年記念の通知表企画を終わります！

SEでの街紹介

さっ、久々の攻略集ですが……今回はSEの第60話までの街の紹介をしていこうかと。

ヒトカゲ

「そういえば全然説明とかしてないもんね。いっぱい溜まったりしてない？」

い、いっぱいではないよきっと(汗)

ルカリオ

「じゃあ始めてくれよ。疲れた」

なら手伝って。向こうにある資料全部持ってきて。

ルカリオ

「めんでえ……」

誰にお仕置きしてもらおう？ カメックス？ それともガブリアスかい？(笑)

ルカリオ

「わかったよ！(汗)」

というわけで、はじめましょうか(笑)

ではまず、今回の旅の舞台である、ポケラス大陸から。

・ポケラス大陸

ヒトカゲが住んでいる「アイランド」から北の方角にある大陸。この世界の中では1番大きい。

近代的に発展を遂げている街もあれば、田舎じみた町もある。だが街同士での争いことは少なく、基本的には平和である。

ヒトカゲ

「へ〜、知らなかった」

……ま、まあ、ヒトカゲだからね（笑）

じゃあ次からはばばっと、第60話まで出てきた街について説明していくよ〜。

・シーフード

砂浜の美しさが印象的な街。施設も整っており、観光目的で訪れる者が多い。名前の由来は、シーフードseafoodの読み方を変えただけ。

・インコロット

アーマルドの出身地。どちらかという田舎で、空気も澄んでおり、景観から趣も感じ取れる。名前の由来は、イタリア語で「清らかな」という意味を持つincorrottoから。

・ロルドフログ

別名、水の街。水道設備が整っており、河や噴水などが美しい。何故か、市長のことを「殿様」という習慣がある。名前の由来は、lord（殿様）とfrカエルogから。

・グリーン

近くに森林があるため、緑が目飛び込んでくる街。それ以外に特に目立つようなものはない。名前の由来は、green（緑）から。

・アイスト

サイクスの出身地。世界一のハイテク都市で、この街を中心としてあらゆるものが発展している。名前の由来は、Information Technology（情報科学技術）の略「ist」から。

・カレッジ

大規模な学園都市。技を習得する学校、勉強を学ぶ学校、そして警察学校などがある。関連して警察本部もここにある。名前の由来は、college（単科大学）から。

・チル

ポケラス大陸の中でもかなり規模の小さい町。集落が2、3しかなく、しかも子供が多い。名前の由来は、child（子供）のdを抜かしたものだ。

・グランサン

見た感じはシーフォードと変わりない。だが気温がとても暑く、観
光向きではない。グラードンが眠る地でもある。名前の由来は、g
round（地面）とsun（太陽）から。

・グローバル

20年前、一夜にして壊滅した村。それ以外はまだ明らかにされて
いない。名前の由来は、ジユプトルの英語読み（Grovyie）
から。

とりあえずはここまでかな？

ルカリオ

「はあ、はあ……資料持って来たぜ」

ご苦労様。でも終わっちゃったから戻しておいて（笑）

ルカリオ

「……あのさ、気が済むまで殴らせる（怒）」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2753g/>

「ヒトカゲの旅」攻略集

2010年10月9日22時03分発行